

## 教育相談のご案内

お子さんは成長していく過程で、様々な心の葛藤を経験していきます。時には、友達関係や自己肯定感の弱さから不登校につながることもあります。子ども自身が自分の力で乗り越えていける、たくましくしなやかな心育てを一緒に考えていきましょう。

たくましくしなやかな  
心育てを



# たくましくしなやかな**心育**てを・・・

## 社会性・対応力・気持ちのコントロール・自己肯定感

これらの力は、様々な状況に適応していく力につながって  
いきます。

### 自己肯定感

自己表現

意欲・自信

自分を大切にすゝる気持ち

### 対応力

自主性・意欲・挑戦

粘り強さ・創造性

判断力

### 社会性

コミュニケーション力

協調性・思いやり

責任感

### 気持ちのコントロール

自制心・忍耐力

集中力

## 心や社会性の発達には一定の順序性があります

発達各段階を子どもが、自分の力で乗り越え達成する  
経験を積んでいくことで、たくましくしなやかな心へと育  
っていきます。

時には、子育てを立ち止まり、振り返ってみてください。

## 子どものこんな姿が気になります

- 自分の意志や主張ができない
- 自分で物事がきめられない
- 無気力になる
- 友達の様子ばかりが気になる
- コミュニケーションをとるのが苦手
- 気持ちのコントロールができにくい
- 些細なことで心配や不安になる
- 自己評価が低くなる

## 子どもの心に寄り添うために

- ・家庭が安らぎの場となるように
- ・自立を促す関わりを
- ・温かく見守るかわわりを
- ・人間関係の基盤づくりを
- ・我慢する心やルールを守ることの大切さを

「がんばれ」という言葉より「がんばっているね」という言葉をかけてあげましょう。子どものやる気や努力する心を育て、ひいては学力の向上にもつながります。

様々な経験や体験は、自分で物事を決めるときに判断の基準となり、役に立ちます。また、自分で決断できた事が自信にもつながります。

子どもが乗り越えなければいけないハードルを大人が取り除いてしまったら子どもは成長しません。大人の出番とそうでない時とを考えましょう。

自己肯定感が低いと自分を否定的に受け止めがちになってしまいます。ありのままの子どもの姿を受け止め、前向きに考えられる言葉がけが大切です。

子どもとの距離感を考えながらも会話の機会を持ち、子どもの考え方を理解し、信じて見守る忍耐力も必要です。

子どもの駄目なところを直そうとするより、成長しようとする力を応援しましょう。



### 幼児後期

(3歳～6歳)

集団生活の中様々な葛藤を通して気持ちをコントロールしていきます。



### 児童期

(小学校低・中学年)

学習が始まり、苦手な事にも取り組みます。また活動や友達関係が広がります。



### 前思春期

(小学校高学年)

心と体に変化の兆しが表れます。自分と友達を比較し客観視ができます。



### 思春期・前半

(中学生)

自立願望で親へ依存心が薄れます。様々な矛盾に気づき反抗的になります。